

# マネージドクラウド with bit-drive 仮想マシンサービス 管理者マニュアル

[管理者さま向け]

---

2022年4月5日 Version 4.0

ソニービズネットワークス株式会社

## 著作権情報

本ドキュメントは、著作権法で保護された著作物で、その全部または一部を許可なく複製したり複製物を配布したり、あるいは他のコンピュータ用に変換したり、他の言語に翻訳すると、著作権の侵害となります。

## ご注意

予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがあります。また、本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねます。

## 商標表示

記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

## 目次

1.. はじめに.....	4
2.. 注意事項.....	5
3.. マネージドクラウドポータル.....	6
3-1 マネージドクラウドポータルへログイン.....	6
4.. Web 管理コンソールの利用手順.....	8
4-1 リモートコンソール接続.....	9
4-2 電源管理.....	10
4-3 スナップショット管理.....	14
5.. 仮想マシンのディスク拡張.....	19
5-1 標準ディスクの拡張.....	19
5-2 追加ディスクの割り当て.....	26
6.. セキュリティソフトのセンターへの接続方法の変更.....	32

## 1 はじめに

このたびは、マネージドクラウド with bit-drive 仮想マシンサービスをご契約いただき、ありがとうございます。

本マニュアルでは、マネージドクラウド with bit-drive 仮想マシンサービスで提供される Windows Server の管理者向けの利用・設定手順について記載しています。

サービスを利用開始するにあたり、本マニュアルをご一読ください。

## 2 注意事項

マネージドクラウド with bit-drive 仮想マシンサービスをご利用になるにあたり、以下の注意事項があります。

- 本マニュアルに記載されている内容以外の機能および作業に関してはサポート対象外です。
- 弊社にてお客さま環境のバックアップは取得していません。万が一 OS が起動しなくなるなどの状況が発生した場合、バックアップを取得していないと初期状態での再提供になりますので、必ずお客さまにてバックアップを取得してください。
- 標準ディスクを拡張した場合、拡張ボリュームのみを解約することはできません。標準ディスクの拡張は十分にご検討のうえ、ご契約ください。

## 3 マネージドクラウドポータル

マネージドクラウド with bit-drive 仮想マシンサービスのご契約の仮想マシンに対し、Web サービスを通じて主に以下の機能が利用できます。

- 仮想マシンごとの契約リソース表示
- 仮想マシンのリソース変更オーダー
- Web 管理コンソール機能
  - リモートコンソールによる仮想マシンの操作
  - リモートからの仮想マシンの電源 OFF/ON
  - 仮想マシンのスナップショット管理

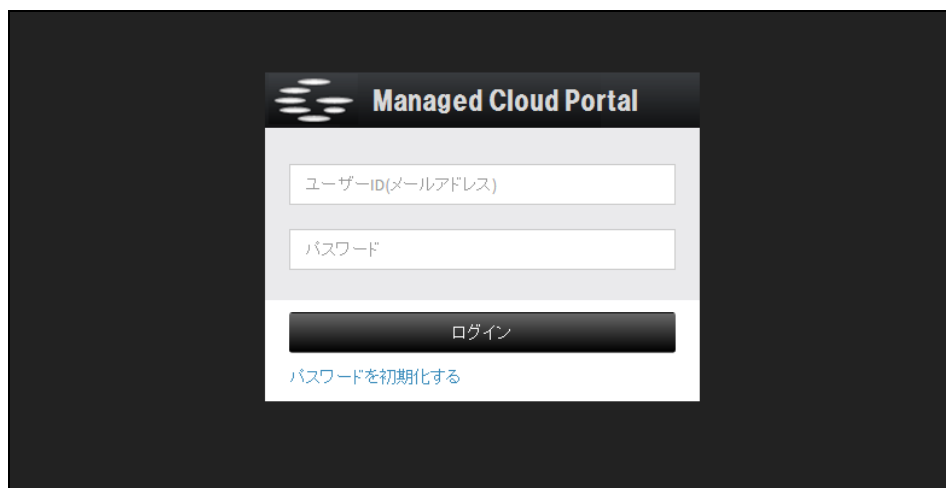
これらの機能を利用するためには弊社より提供している Web サービス “マネージドクラウドポータル”にログインする必要があります。

本章ではマネージドクラウドポータルへのログイン手順および Web 管理コンソールを利用するためのパスワード設定手順について記載しています。

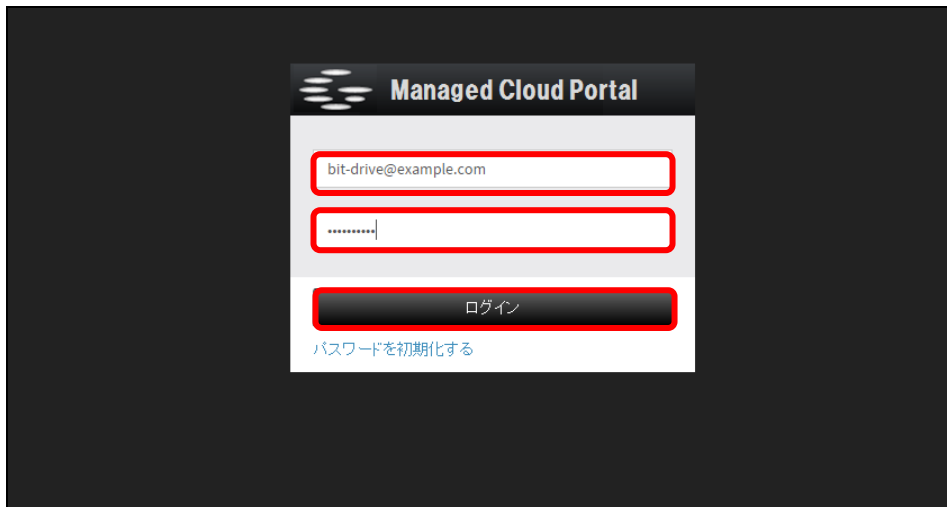
### 3-1 マネージドクラウドポータルへログイン

1. マネージドクラウドポータルにログインします。

URL : <https://cloud-portal.jp/>



2. ご契約時にお送りしている登録内容通知に記載されているマネージドクラウドポータルログインIDおよび初期パスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。



ダッシュボードが表示されます。

3. 現在契約されているサービスが表示されます。



以上でマネージドクラウドポータルへのログイン手順は完了です。

## 4 Web 管理コンソールの利用手順

マネージドクラウドポータル Web 管理コンソール機能により、ご契約の仮想マシンをマネージドクラウドポータル上で操作することができます。

それぞれの仮想マシンに対してリモートコンソール接続、電源オフ/オン、スナップショット取得などが行えます。

本章では、Web 管理コンソール機能の利用手順を以下の項目ごとに説明します。

- [リモートコンソール接続 \(4-1 章\)](#)
- [電源オフ/オン \(4-2 章\)](#)
- [スナップショット管理 \(4-3 章\)](#)

### メモ

- 各操作はすべてマネージドクラウドポータルにログインして行う操作です。ご利用の際は、下記手順でマネージドクラウドポータルにログインしてから行ってください。
  1. マネージドクラウドポータルにログインします。（詳細手順は[こちら](#)）
  2. 「マネージドクラウド with bit-drive 仮想マシンサービス」 > 「Management Link」をクリックします。



ご契約中の仮想マシン一覧が表示されます。



## 4-1 リモートコンソール接続

仮想マシンを Web ブラウザから操作するためのリモートコンソールの接続手順について記述します。

1. 仮想マシン一覧から接続したい仮想マシンの「仮想マシンにログオン」をクリックします。

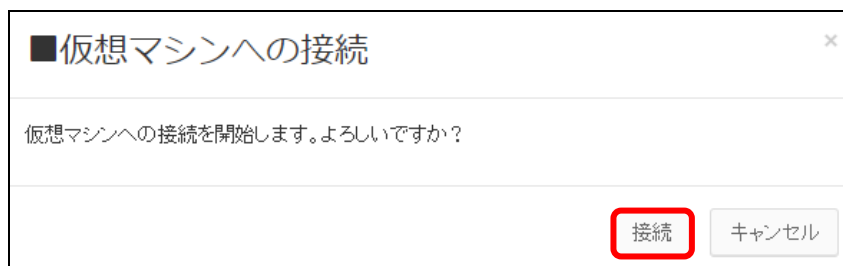
仮想マシン名	仮想マシンタイプ	契約リソース	電源ステータス	リンク
 DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64	リソース共有型	OS: Windows Server 2012 R2 Standard 64bit CPU: 2コア メモリ: 4GB 標準ディスク: 40GB 追加ディスク: 0GB IPアドレス (LAN):	● running	<a href="#">仮想マシンにログオン</a>

「管理コンソール」画面が表示されます。

2. 「接続」をクリックします。



確認画面が表示されるので、「接続」をクリックします。



Windows Server の画面が表示されれば接続は完了です。

### メモ

- Windows Server がスリープ状態の場合は画面が暗くなっています。マウスなどを動かせば画面が復帰します。

## 4-2 電源管理


マネージドクラウドポータルよりご契約の仮想マシンの電源オフ/オンを実施することができます。電源のオフとオンに分けてそれぞれの手順を記述します。

### 重要

- マネージドクラウドポータルからの電源オフは、強制的に仮想マシンを停止させる機能です。
- Windows Server にログオンできる場合は、ログオンして正常にシステムをシャットダウンされることをお勧めします。何かしらの理由でログオンできない場合などに限り本操作を実施してください。

### 4-2-1 電源オフ

1. 仮想マシン一覧から接続したい仮想マシンの「仮想マシンにログオン」をクリックします

仮想マシン名	仮想マシンタイプ	契約リソース	電源ステータス	リンク
 DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64	リソース共有型	OS: Windows Server 2012 R2 Standard 64bit CPU: 2コア メモリ: 4GB 標準ディスク: 40GB 追加ディスク: 0GB IPアドレス(LAN):	● running	<a href="#">仮想マシンにログオン</a>

「管理コンソール」画面が表示されます。

2. 「電源管理」 > 「電源オフ」をクリックします。






3. 確認画面が表示されるので、「電源オフ」をクリックします。



4. 「電源をオフにしました。」と表示されることを確認します。




5. 仮想マシン一覧の「電源ステータス」が「stopped」となっていることを確認します。

仮想マシン名	仮想マシンタイプ	契約リソース	電源ステータス	リンク
 DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64	リソース共有型	OS: Windows Server 2012 R2 Standard 64bit CPU: 2コア メモリ: 4GB 標準ディスク: 40GB 追加ディスク: 0GB IPアドレス(LAN):	 stopped	仮想マシンにログオン 

以上で仮想マシンの電源オフは完了です。

## 4-2-2 電源オン

1. 仮想マシン一覧から接続したい仮想マシンの「仮想マシンにログオン」をクリックします。

仮想マシン名	仮想マシンタイプ	契約リソース	電源ステータス	リンク
 DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64	リソース共有型	OS: Windows Server 2012 R2 Standard 64bit CPU: 2コア メモリ: 4GB 標準ディスク: 40GB 追加ディスク: 0GB IPアドレス(LAN):	● stopped	<a href="#">仮想マシンにログオン</a>

「管理コンソール」画面が表示されます。

2. 「電源管理」 > 「電源オン」をクリックします。




3. 確認画面が表示されるので、「電源オン」をクリックします。



4. 「電源をオンにしました。」と表示されることを確認します。



5. 仮想マシン一覧の「電源ステータス」が「running」となっていることを確認します。

仮想マシン名	仮想マシンタイプ	契約リソース	電源ステータス	リンク
 DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64	リソース共有型	OS: Windows Server 2012 R2 Standard 64bit CPU: 2コア メモリ: 4GB 標準ディスク: 40GB 追加ディスク: 0GB IPアドレス(LAN):	<span style="color: green;">●</span> running	<a href="#">仮想マシンにログオン</a>

以上で仮想マシンの電源オンは完了です。

## 4-3 スナップショット管理

仮想マシンのスナップショットを管理するための手順について記述します。この機能では、仮想マシンのスナップショットを任意のタイミングで取得することと、取得してあるスナップショットを使って取得時点の状態に仮想マシンを復元することが出来ます。

### 重要

- スナップショット管理では、複数のブラウザウィンドウでの同時操作および複数ログインによる同時操作は絶対に行わないでください。同時にスナップショットの取得や復元が実行されると、意図しない動作が起こる可能性があります。

### 4-3-1 スナップショットの取得

仮想マシンのスナップショットは自動で毎日 1 回取得されていますが、任意のタイミングで手動取得することも出来ます。その手順について記述します。

なお、スナップショットの保存個数は自動・手動の区別なく一定数と決まっており、その数を超えるスナップショットは古いものから削除されます。

- 仮想マシン一覧から対象の仮想マシンに対し、「仮想マシンにログオン」をクリックします。



仮想マシン名	仮想マシンタイプ	契約リソース	電源ステータス	リンク
DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64	リソース共有型	OS: Windows Server 2012 R2 Standard 64bit CPU: 2コア メモリ: 4GB 標準ディスク: 40GB 追加ディスク: 0GB IPアドレス(LAN):	● running	仮想マシンにログオン

「管理コンソール」画面が表示されます。

- 「スナップショット管理」をクリックします。



「スナップショット管理」画面が表示されます。

3. 「スナップショットを取得」をクリックします。

## スナップショット管理

■ DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64

「スナップショットを取得」ボタンでスナップショットを取得するか、保存されたスナップショットを選択し「この時点に戻す」ボタンを押してください。

**スナップショットを取得**

スナップショットを取得

**保存されたスナップショット**

保存されたスナップショットはありません。

4. 確認画面が表示されますので、「実行」をクリックします。

### ■スナップショットの取得確認

スナップショットを取得します。スナップショットは最大で2個までです。複数存在する場合は古いものから削除されます。

実行

5. 「スナップショット取得処理を開始しました」と表示されるので、10分程お待ちください。

## スナップショット管理

スナップショット取得処理を開始しました。10分程度経ってから再度画面を表示し直してください。

■ DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64

「スナップショットを取得」ボタンでスナップショットを取得するか、保存されたスナップショットを選択し「この時点に戻す」ボタンを押してください。

**スナップショットを取得**

スナップショットを取得

**保存されたスナップショット**

保存されたスナップショットはありません。

6. ページを再読み込みすると取得されたスナップショットが表示されます。



以上で、スナップショットの取得作業は完了です。

#### 4-3-2 スナップショットからの復元

仮想マシンをスナップショット取得時点の状態に復元する手順について記述します。復元を一旦開始すると中断や取消はできませんのでご注意ください。

##### 重要

- Windows Server 2008 R2 のドメインコントローラーに対してスナップショットを使って Windows Server を復元することは絶対に行わないでください。ドメインコントローラーのレプリケーションに関する問題が発生することがマイクロソフト社から報告されています。Windows Server 2008 R2 のドメインコントローラーは Windows Server バックアップ機能を使用するなどして復元してください。
- Windows Server 2012 R2 のドメインコントローラーに対してはスナップショットを使った Windows Server の復元に対応しています。

1. 仮想マシン一覧から対象の仮想マシンに対し、「仮想マシンにログオン」をクリックします。

仮想マシン名	仮想マシンタイプ	契約リソース	電源ステータス	リンク
DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64	リソース共有型	OS: Windows Server 2012 R2 Standard 64bit CPU: 2コア メモリ: 4GB 標準ディスク: 40GB 追加ディスク: 0GB IPアドレス (LAN):	● running	<a href="#">仮想マシンにログオン</a>

「管理コンソール」画面が表示されます。



2. 「スナップショット管理」をクリックします。

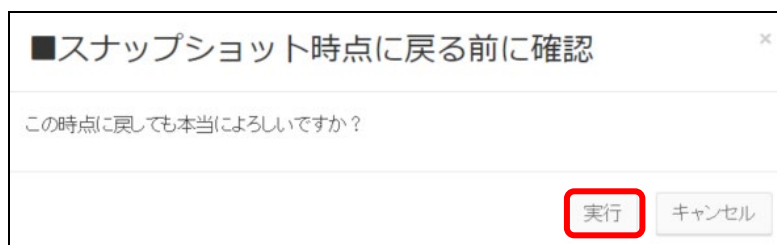


「スナップショット管理」画面が表示されます。

3. 「この時点に戻す」をクリックします。



4. 確認画面が表示されますので、「実行」をクリックします。



5. 「指定された時点に戻す処理を開始しました」と表示されるので、10分程お待ちください。

### スナップショット管理

指定された時点に戻す処理を開始しました。処理が終了するまで10分以上時間を要する場合があります。

■ DG00000-VMW01-WIN2012R2STD64

「スナップショットを取得」ボタンでスナップショットを取得するか、保存されたスナップショットを選択し「この時点に戻す」ボタンを押してください。

**スナップショットを取得**

スナップショットを取得

**保存されたスナップショット**

取得日時	
2015-08-28 18:21:05	この時点に戻す

6. 復元が成功し、正常にアクセスできることを確認します。

メモ

- スナップショットから復元すると OS は強制的にシャットダウンされるため、起動時に以下のポップアップが表示される場合があります。

シャットダウン イベントの追跡ツール

コンピューターが予期せずシャットダウンされた理由を選択してください(W)

その他 (計画外)

原因不明のシャットダウンまたは再起動です。

問題 ID(P)

コメント(E): (このフィールドは選択した理由に対して必要です)

以上で、スナップショットからの復元作業は完了です。

## 5 仮想マシンのディスク拡張

仮想マシンには標準ディスクを持ち、追加ディスクを最大 1 つまで追加することができます。それぞれ初期サイズから拡張できます。ただし、一旦拡張したディスクは縮小できませんのでご注意ください。追加ディスクのみディスク自体の削除をお申込みいただけます。

### 5-1 標準ディスクの拡張

仮想マシンの標準ディスクの拡張を申し込むとその拡張部分は OS から未割り当て状態で提供されます。Windows Server にログオンして以下の手順で拡張してください。

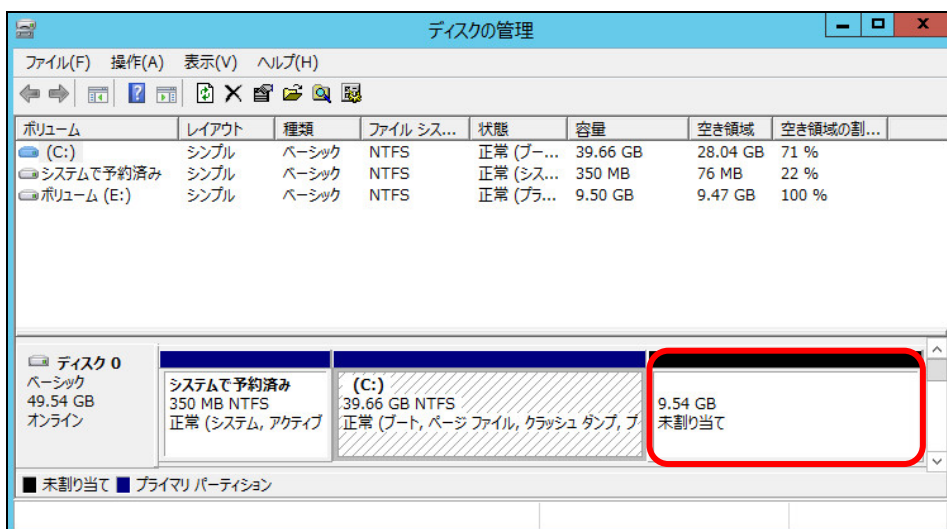
標準ディスクの拡張には「既存ボリュームの拡張」と「別ボリュームの作成」の 2 通りがあり、それぞれの手順を以下に記述します。

#### 5-1-1 既存ボリュームの拡張

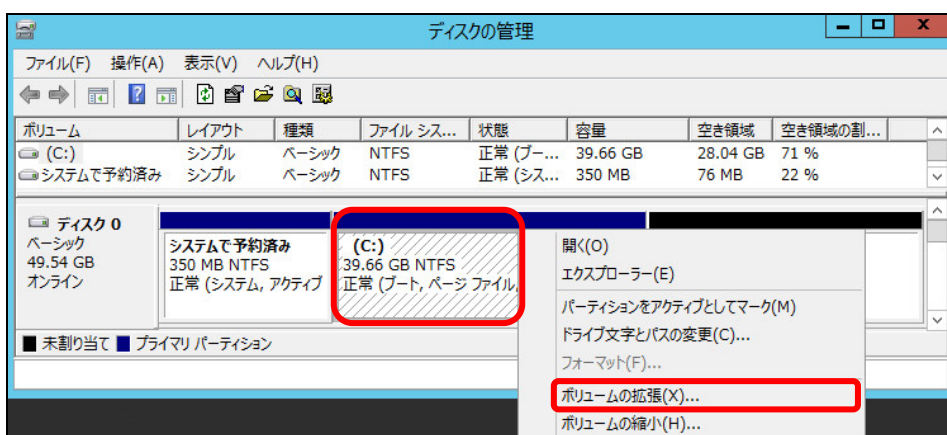
##### 重要

- 既存ドライブに拡張した場合、ディスクサイズの縮小および追加したボリュームの解約は行えなくなりますので、ご注意ください。

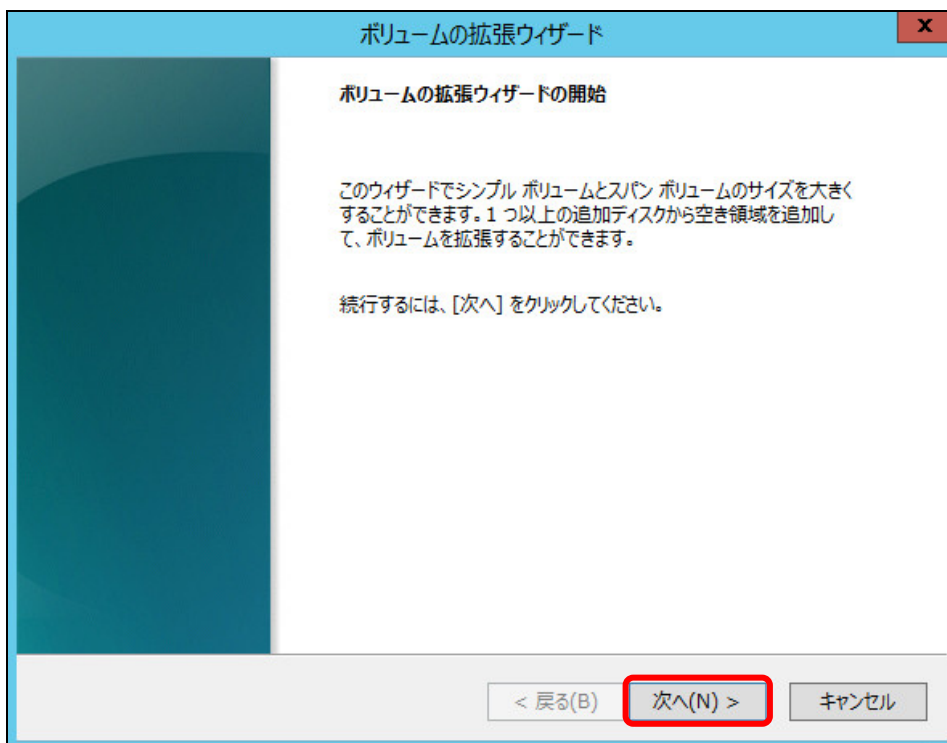
1. 標準ディスク拡張の申し込み後、弊社側の作業が完了すると未割り当ての領域が表示されます。



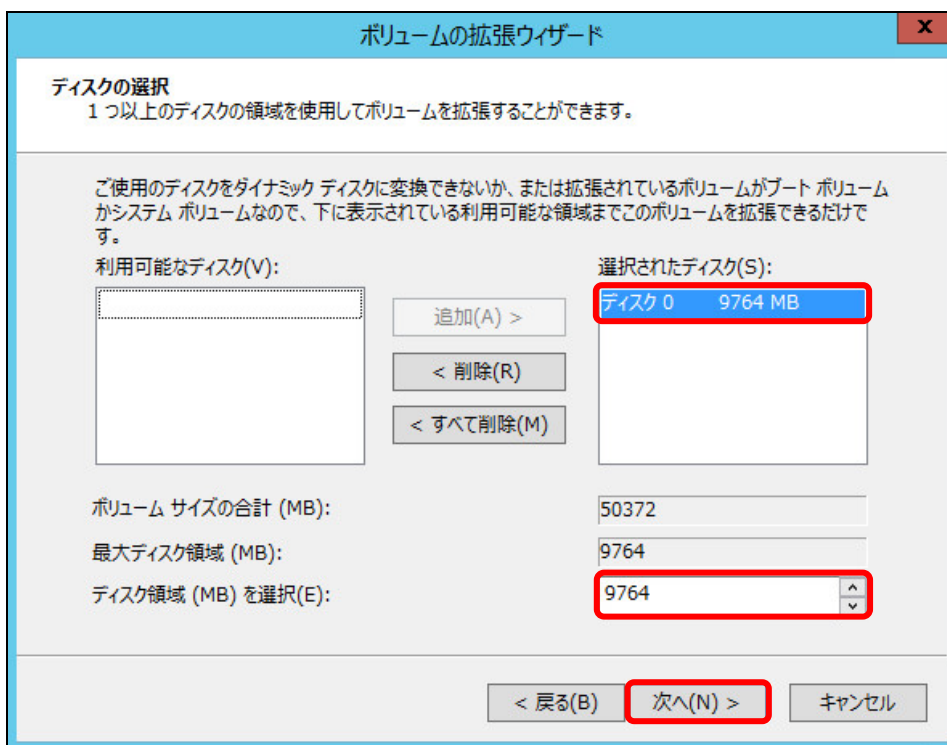
2. 拡張したい領域を右クリックし、「ボリュームの拡張」をクリックします。



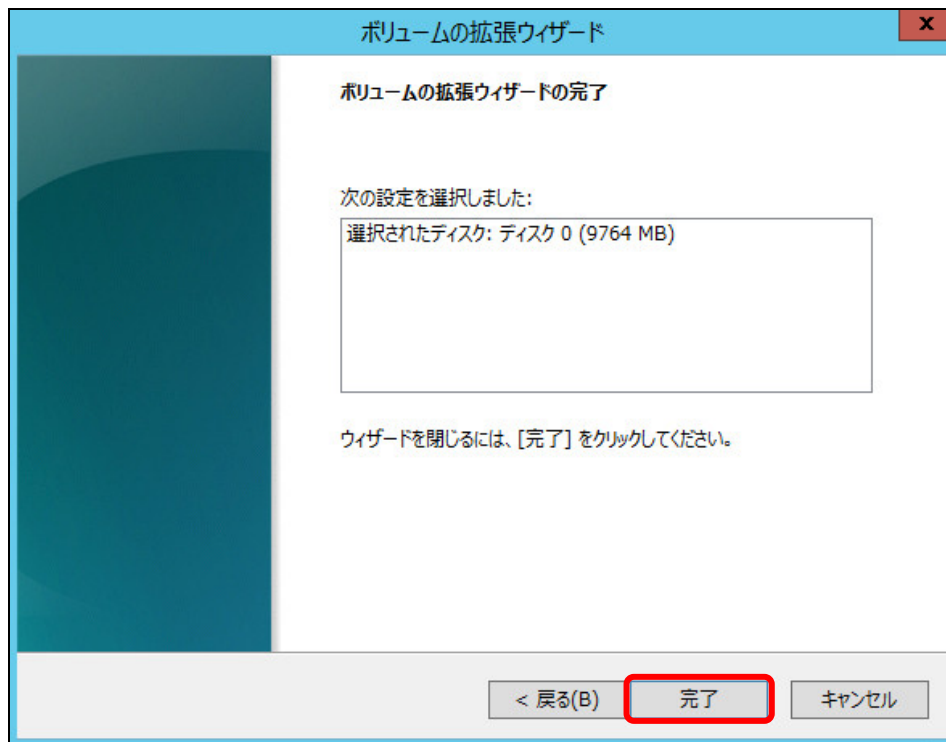
- 「次へ」をクリックします。



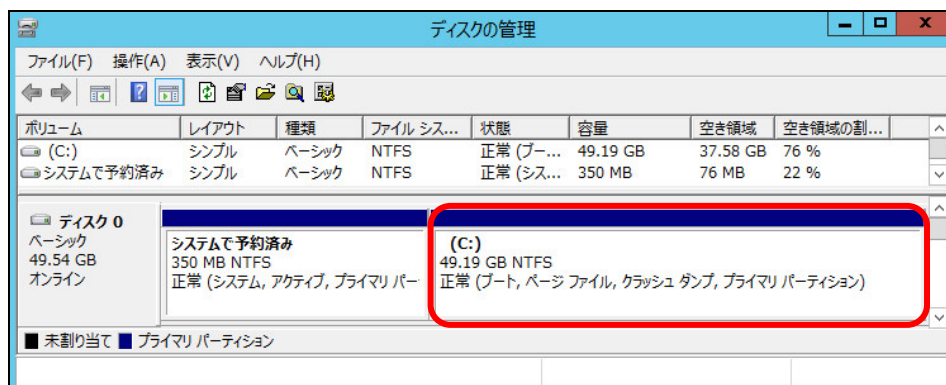
- 対象のボリュームが選択されていることを確認し、ボリュームに割り当てるサイズを指定後、「次へ」をクリックします。



5. 「完了」をクリックします。



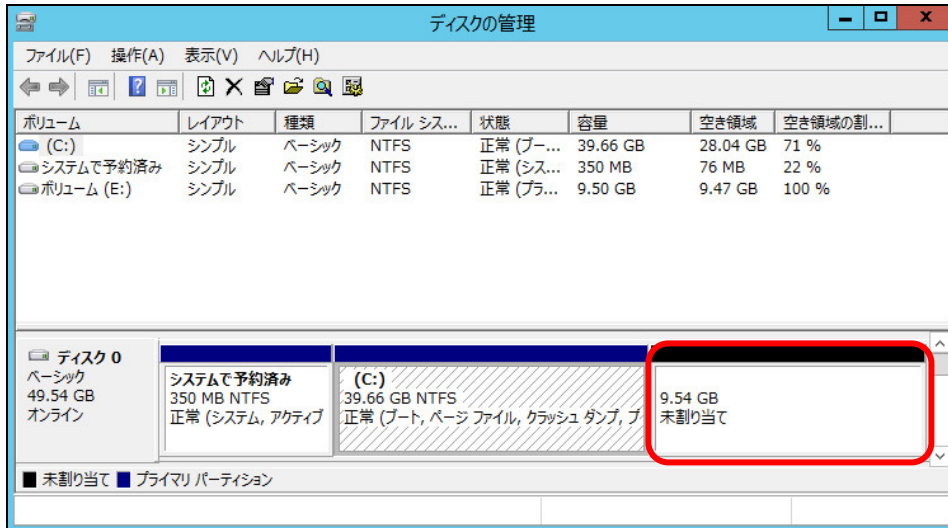
6. 既存ドライブのボリュームサイズが拡張されていることを確認します。



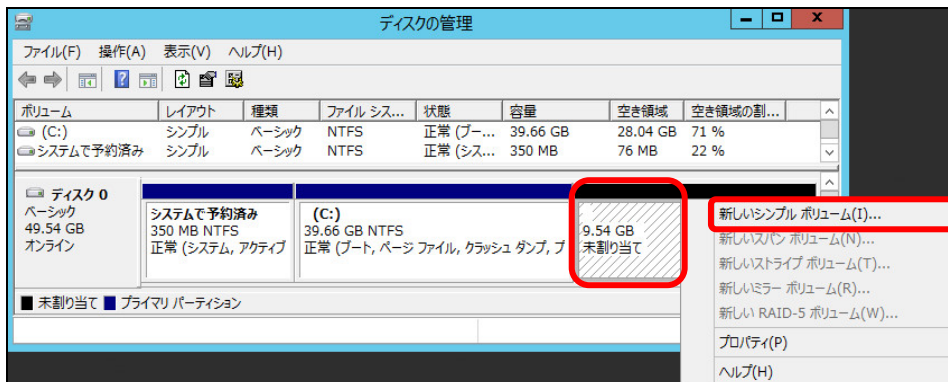
以上で既存ボリュームの拡張は完了です。

## 5-1-2 別ボリュームの作成

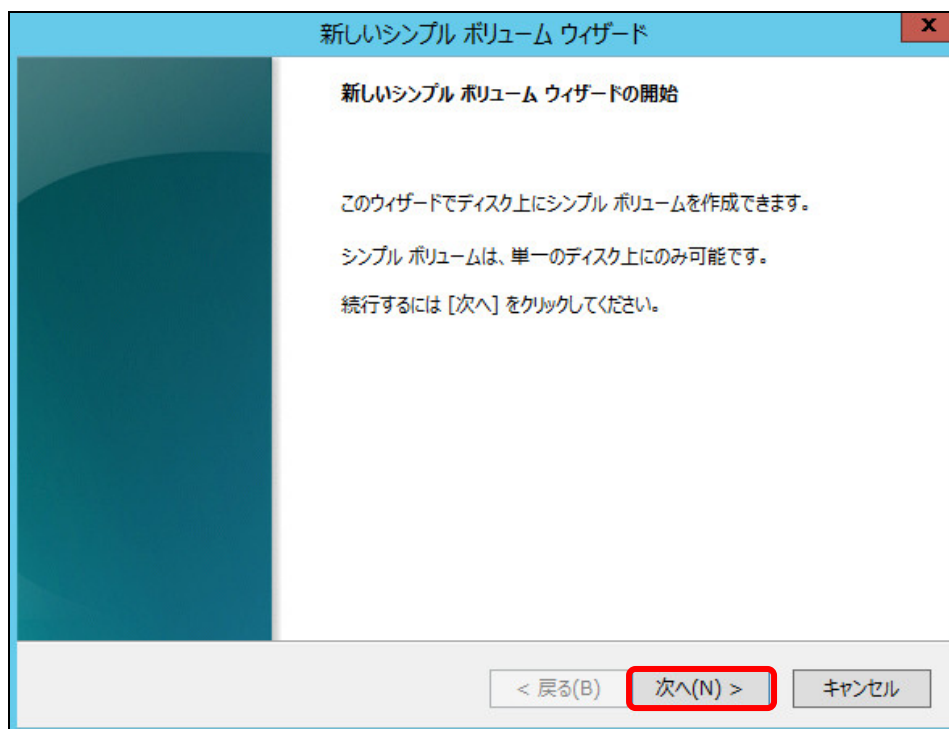
1. 標準ディスクの拡張のお申し込み後、弊社側の作業が完了すると未割り当ての領域が表示されます。



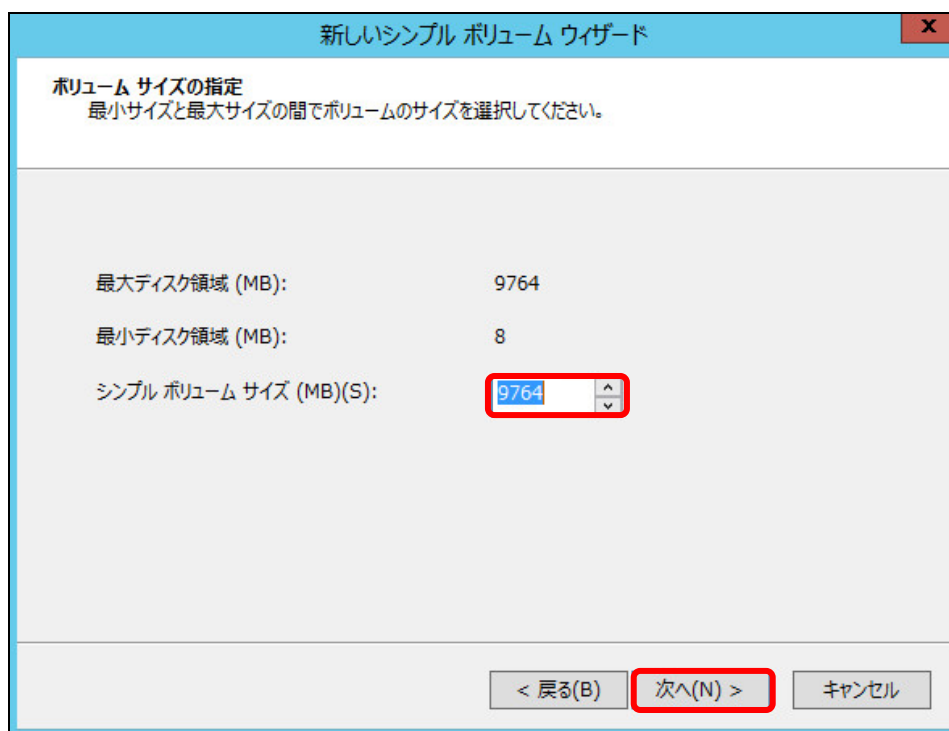
2. 未割り当て領域を右クリックし、「新しいシンプル ボリューム」をクリックします。



3. 「次へ」をクリックします。

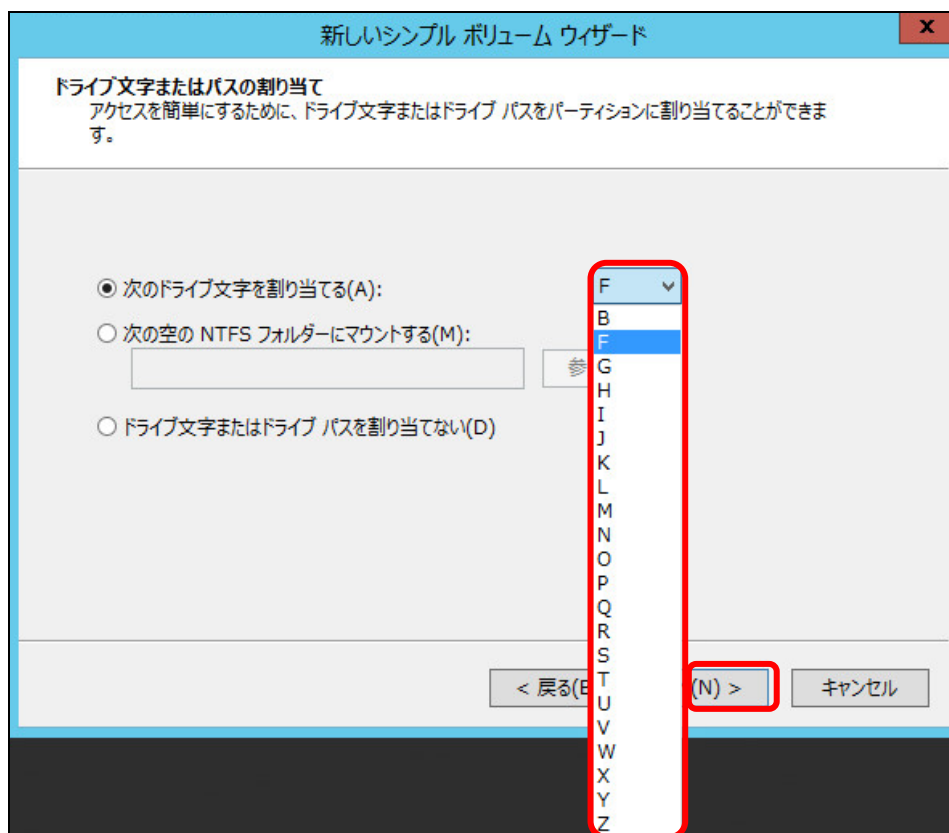


4. ボリュームに割り当てるサイズを指定後、「次へ」をクリックします。

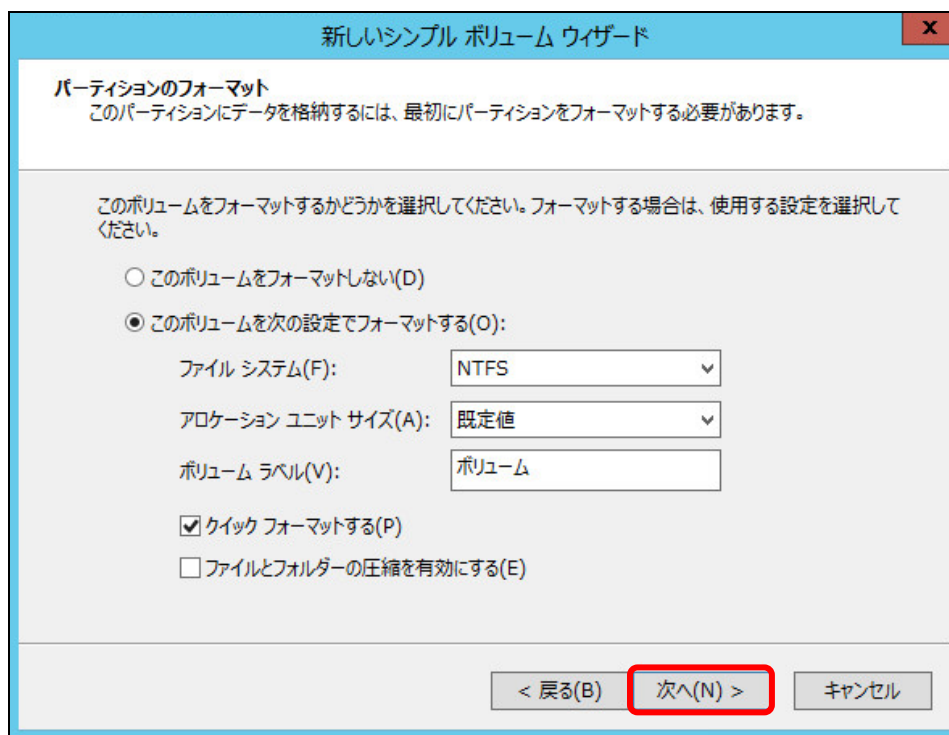




5. ボリュームに割り当てる「ドライブ文字」を選択し、「次へ」をクリックします。

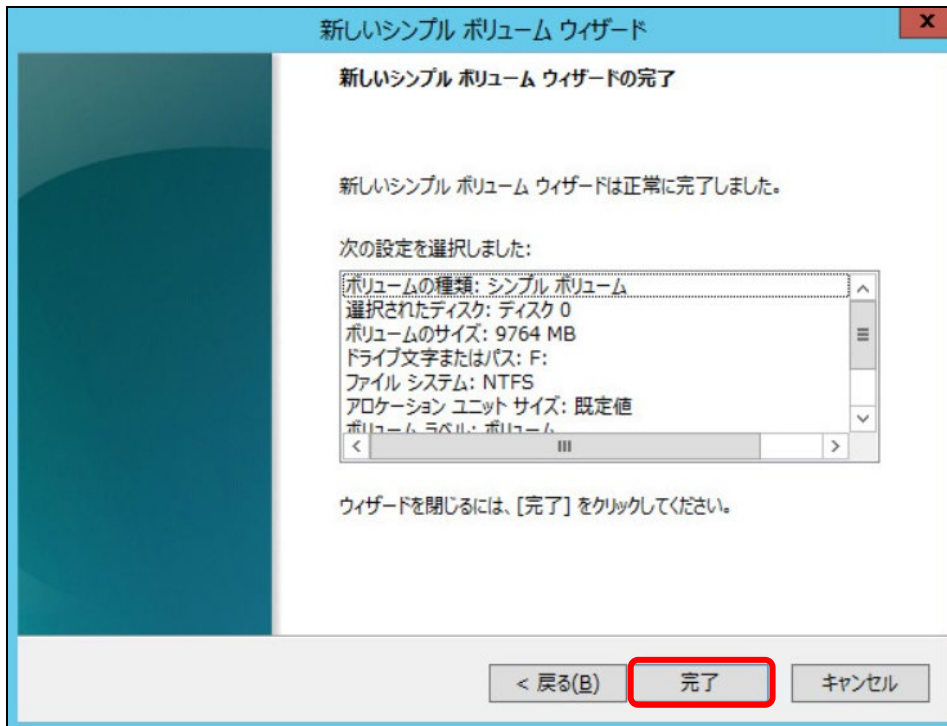


6. 「次へ」をクリックします。





7. 内容を確認し、「完了」をクリックします。

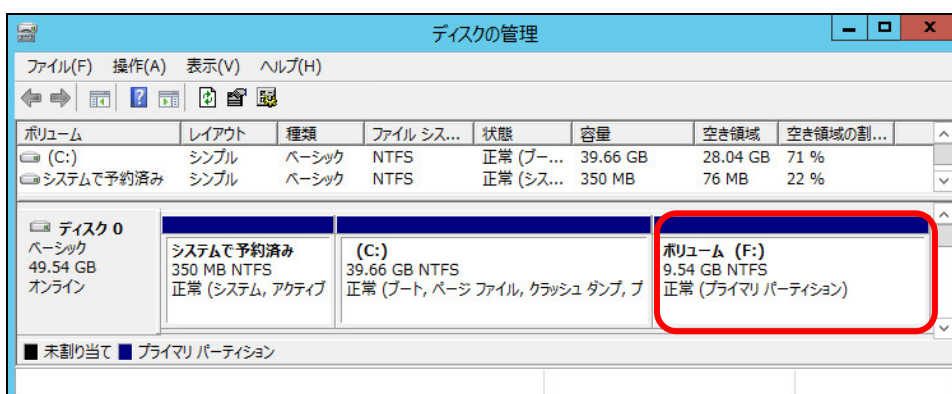


### メモ

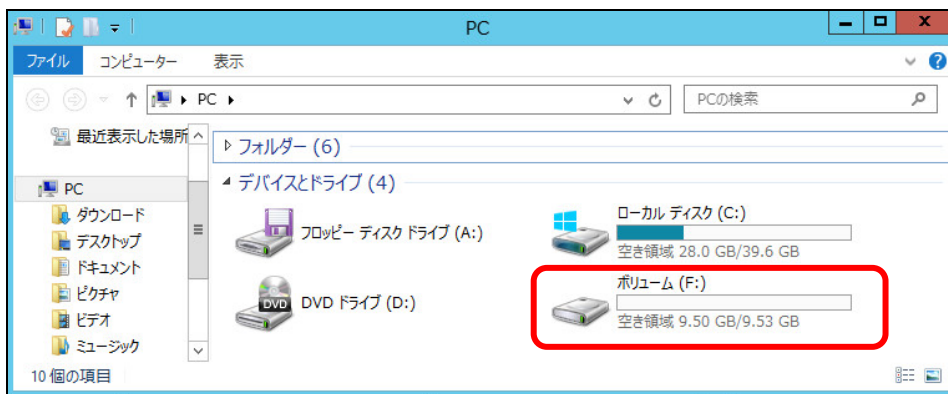
- 以下のメッセージが表示された場合は「ディスクのフォーマット」を実施してください。



8. 正常にボリュームが作成されたことを確認します。



- 作成したボリュームにアクセスできることを確認します。

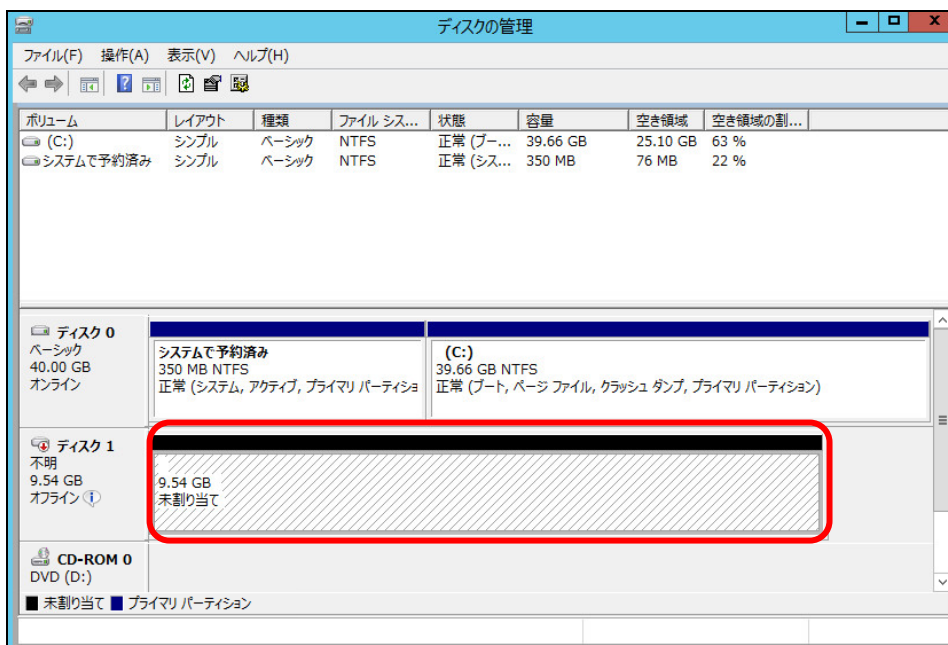


以上で別ボリュームの作成は完了です。

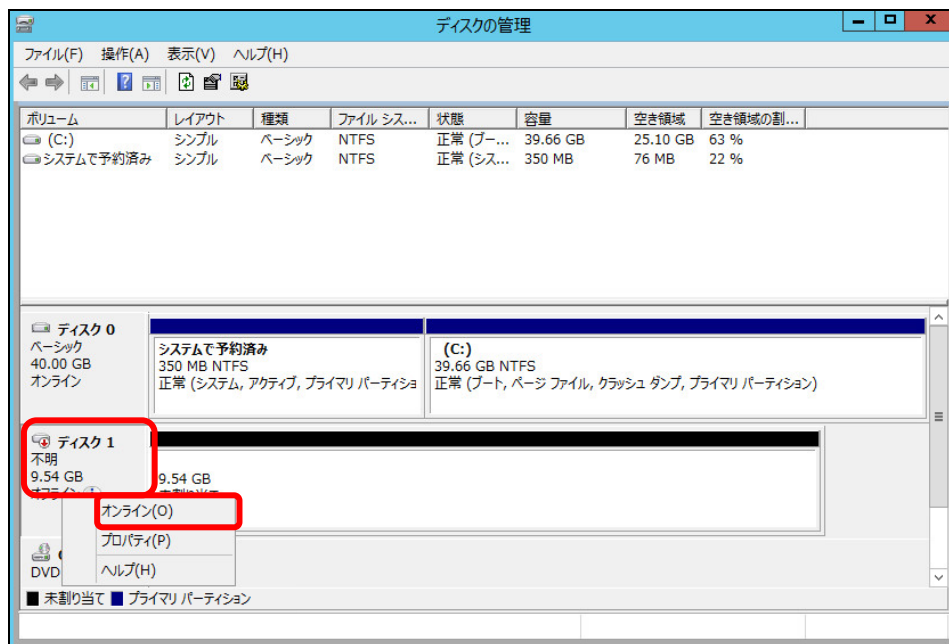
## 5-2 追加ディスクの割り当て

追加ディスクを追加した場合、OSからは未割り当て状態のディスクで提供されます。以下の手順でボリュームを追加してください。

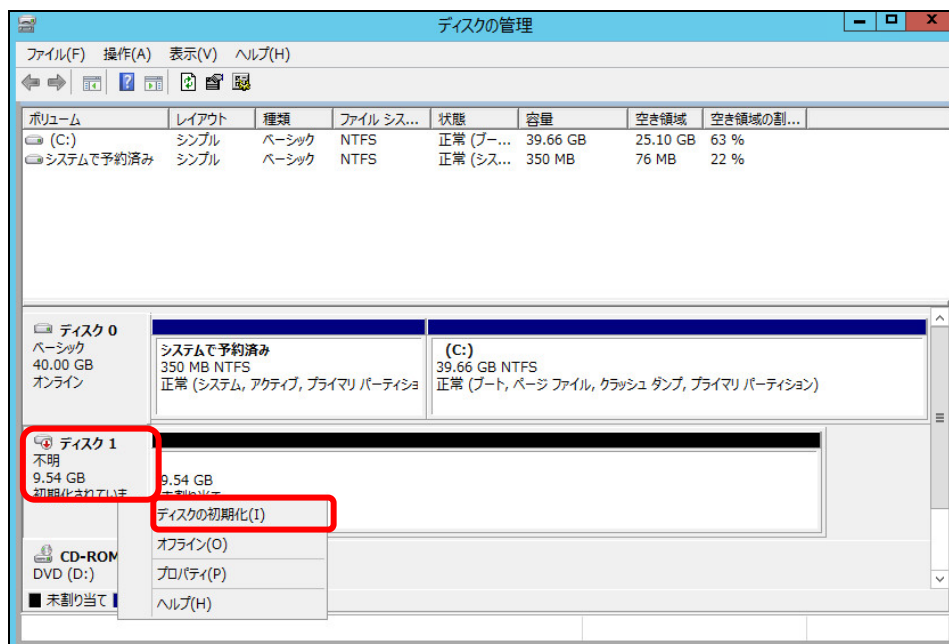
- 追加ディスクの申し込み後、弊社側の作業が完了すると未割り当ての領域が表示されます。



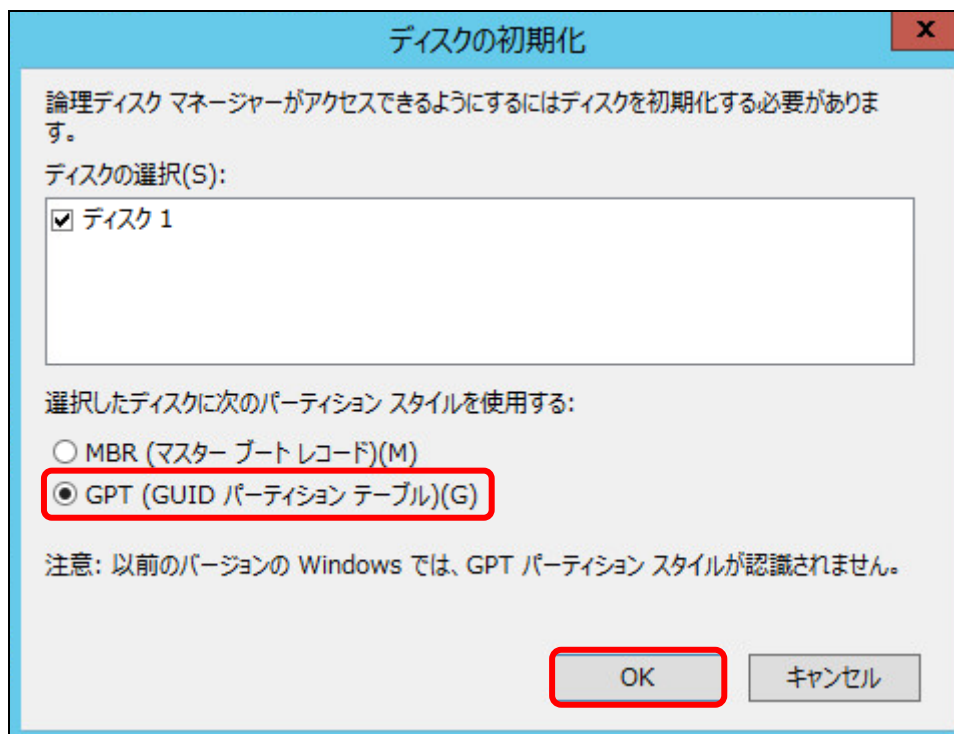
2. 画面左の「ディスク1」を右クリックし、「オンライン」をクリックします。



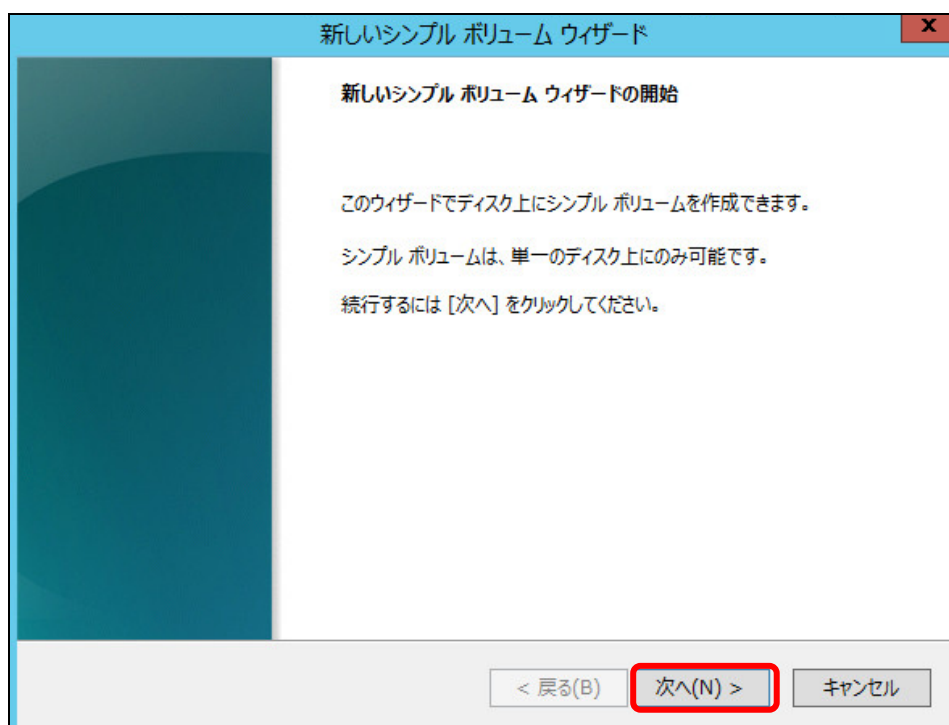
3. 画面左の「ディスク1」を右クリックし、「ディスクの初期化」をクリックします。



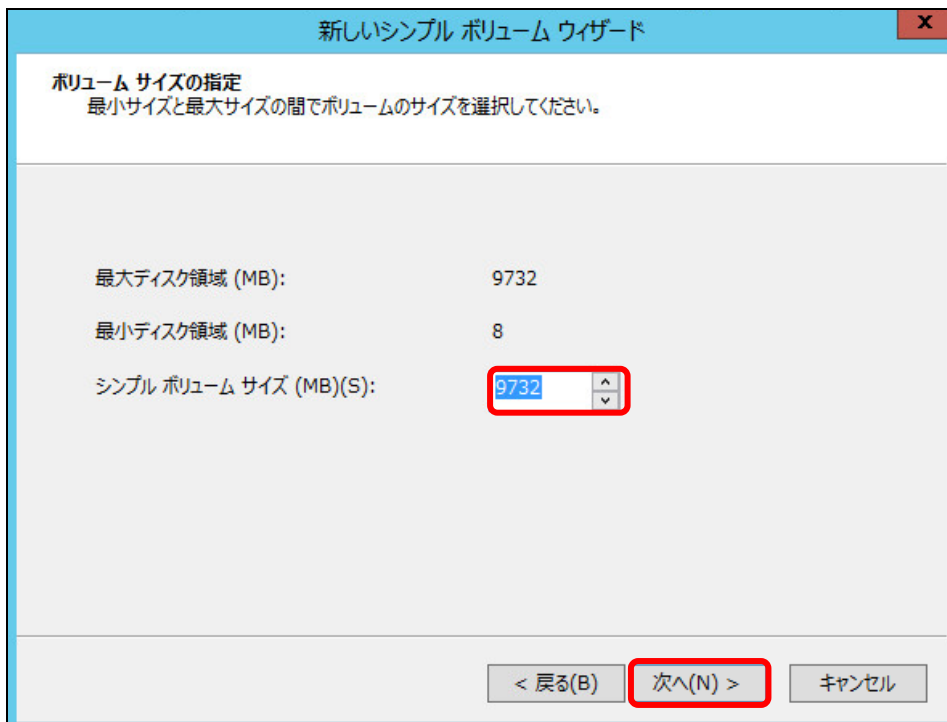
- 「選択したディスクに次のパーティション スタイルを使用する」にて「GPT (GUID パーティション テーブル)」を選択し、「OK」をクリックします。



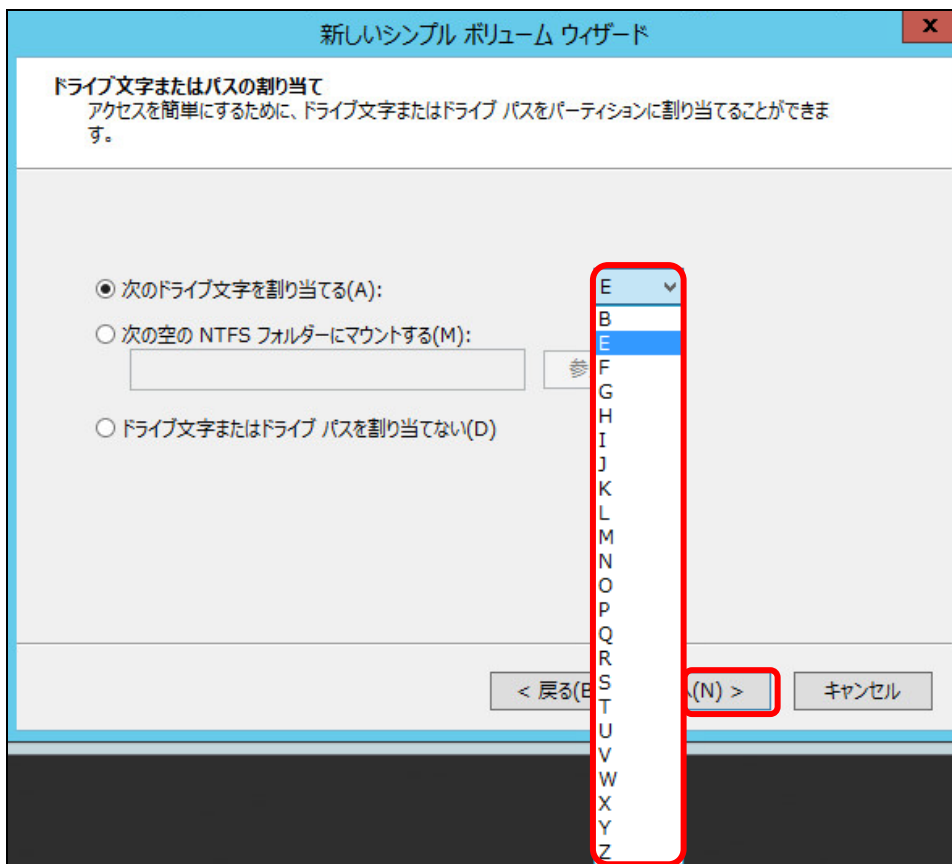
- 「次へ」をクリックします。



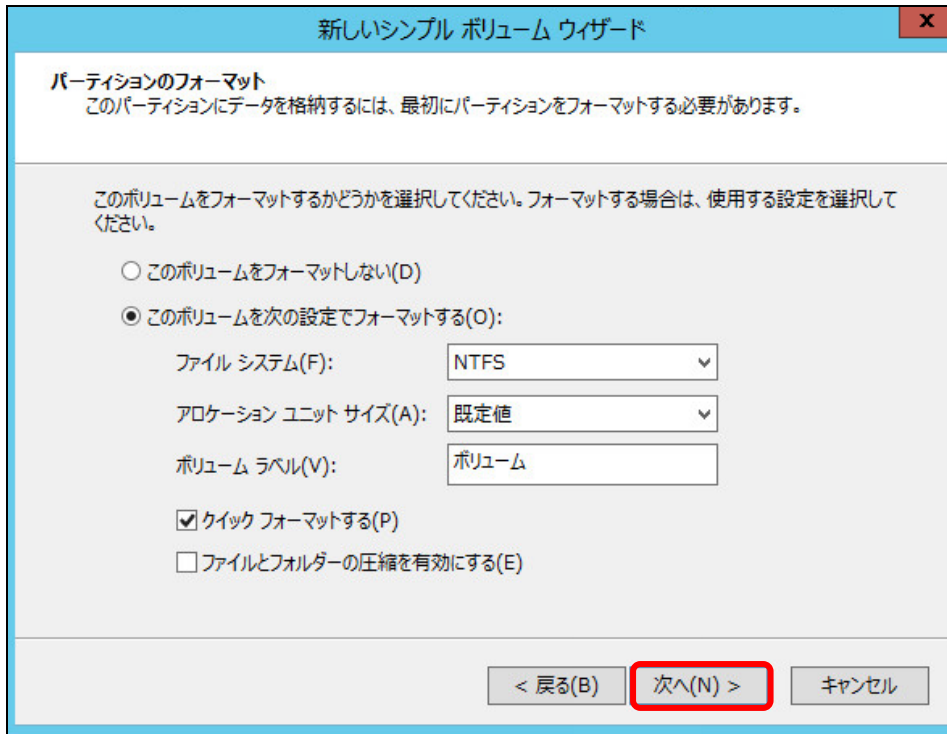
6. 作成するボリュームのサイズを選択し、「次へ」をクリックします。



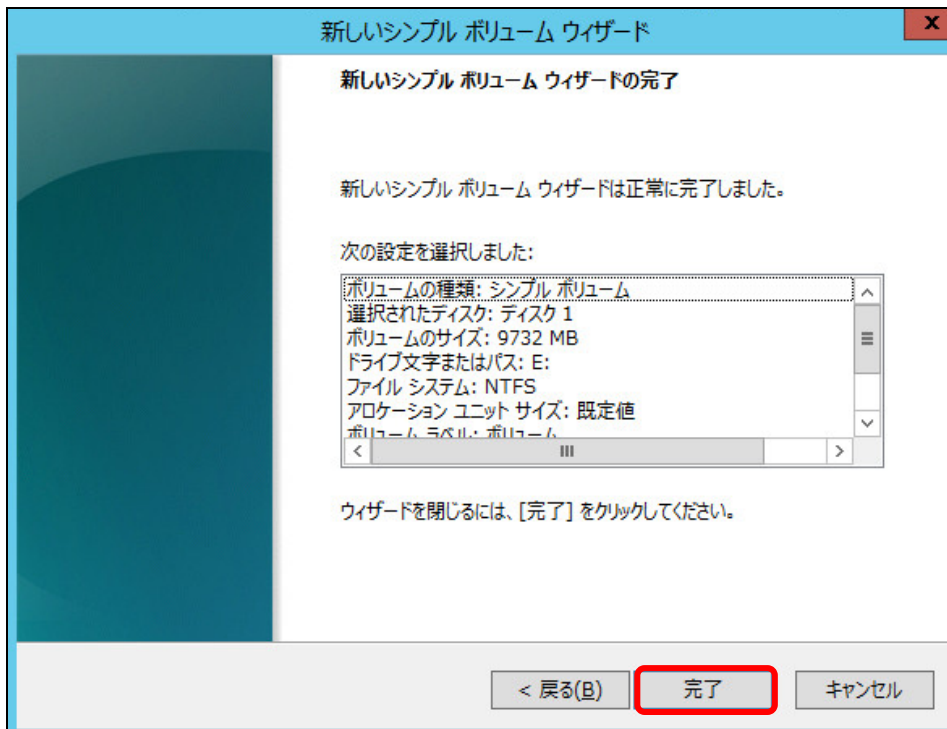
7. ボリュームに割り当てる「ドライブ文字」を選択し、「次へ」をクリックします。



8. 「次へ」をクリックします。

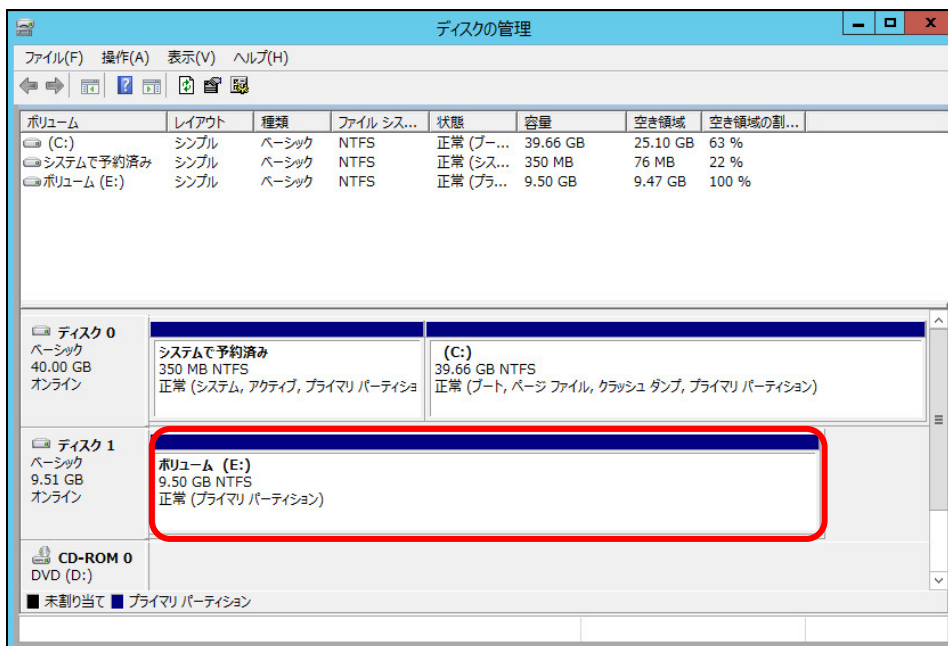


9. 「完了」をクリックします。

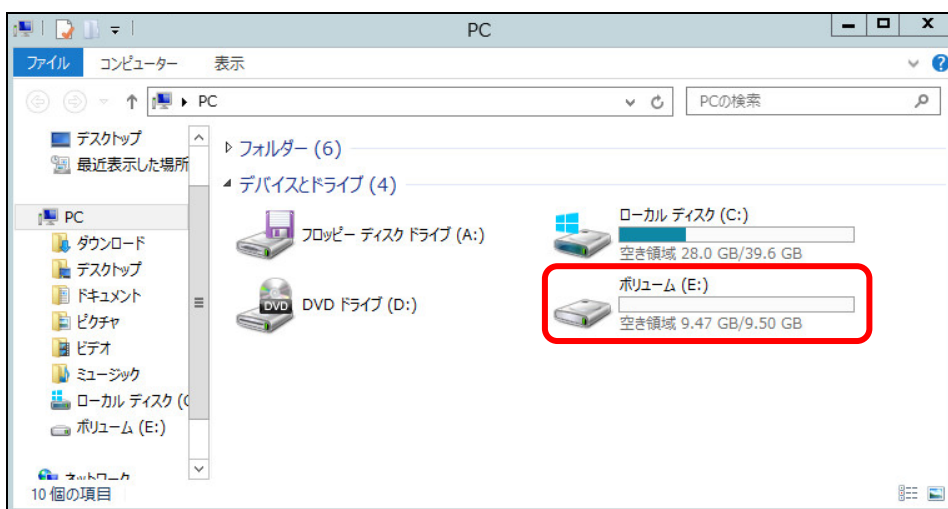




10. 正常にボリュームが作成されたことを確認します。



11. 作成したボリュームにアクセスできることを確認します。



以上で追加ディスクの割当は完了です。

## 6 セキュリティソフトのセンターへの接続方法の変更

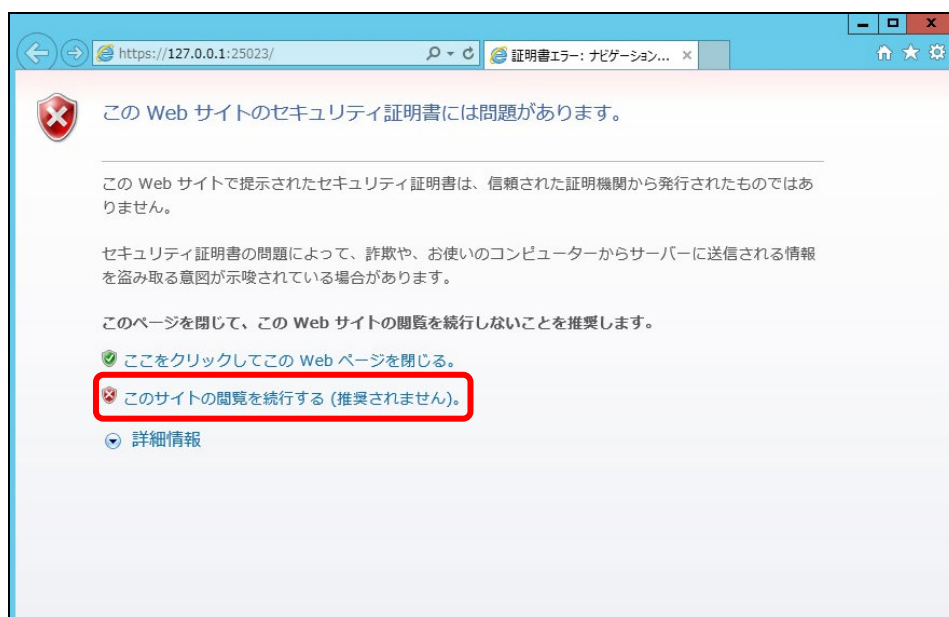
Windows Server はセキュリティソフト (F-secure Server Security) がインストールされた状態で提供されます。

初期状態では Windows Server が直接インターネットゲートウェイ経由でセンターと接続する設定になっていますが、任意のプロキシ経由で接続させたい場合は、以下の手順にて設定が可能です。

1. 「スタート」 > 「アプリ」 > 「F-Secure Server Security」 > 「F-Secure Server Security Web コンソール」 をクリックします。



2. Internet Explorer が立ち上がるので「このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)」 をクリックします。

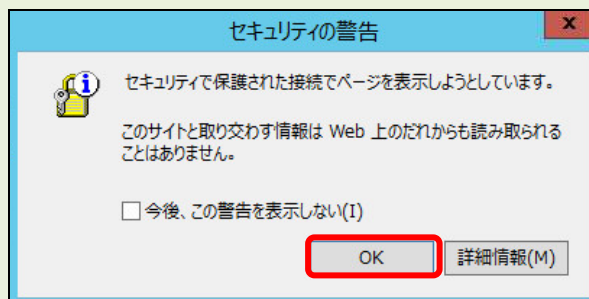




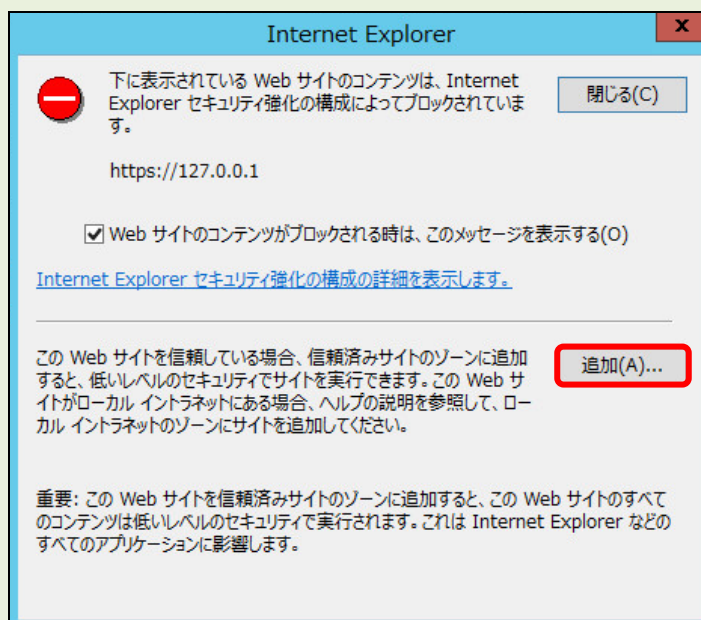
## メモ

- セキュリティ警告が表示される場合は以下の手順にて許可してください。

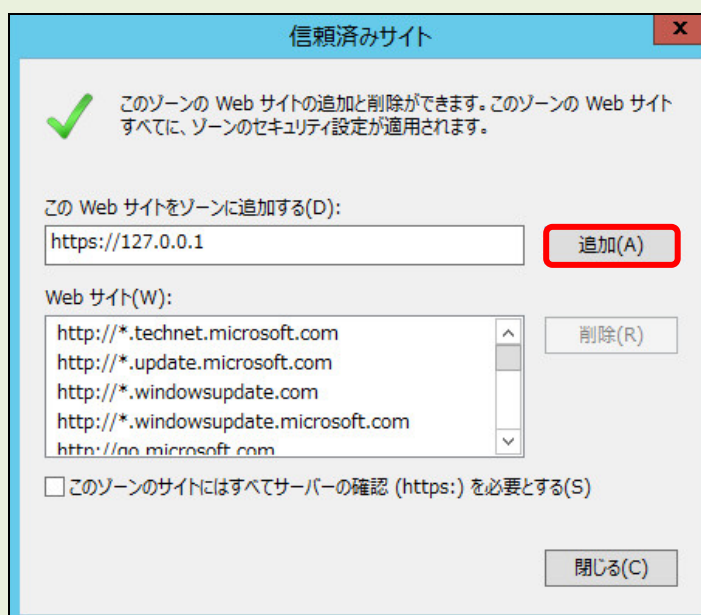
1. OK をクリックします。



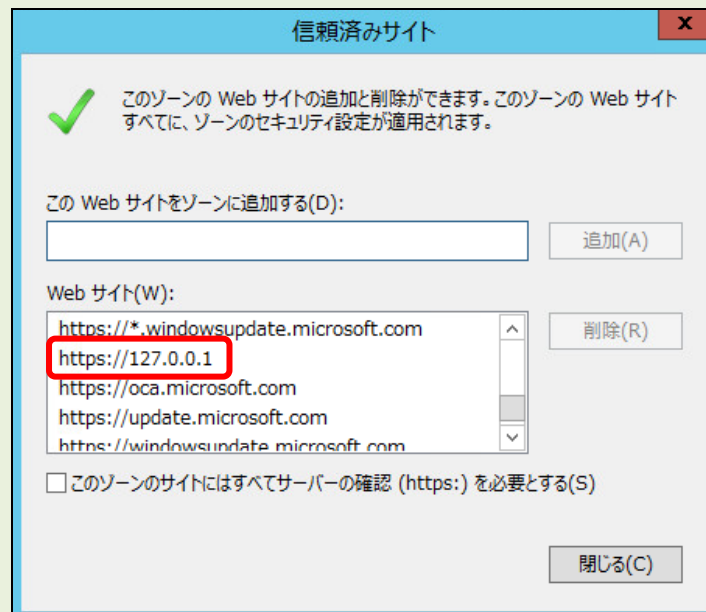
2. 「追加」をクリックします。



3. 「追加」をクリックします。

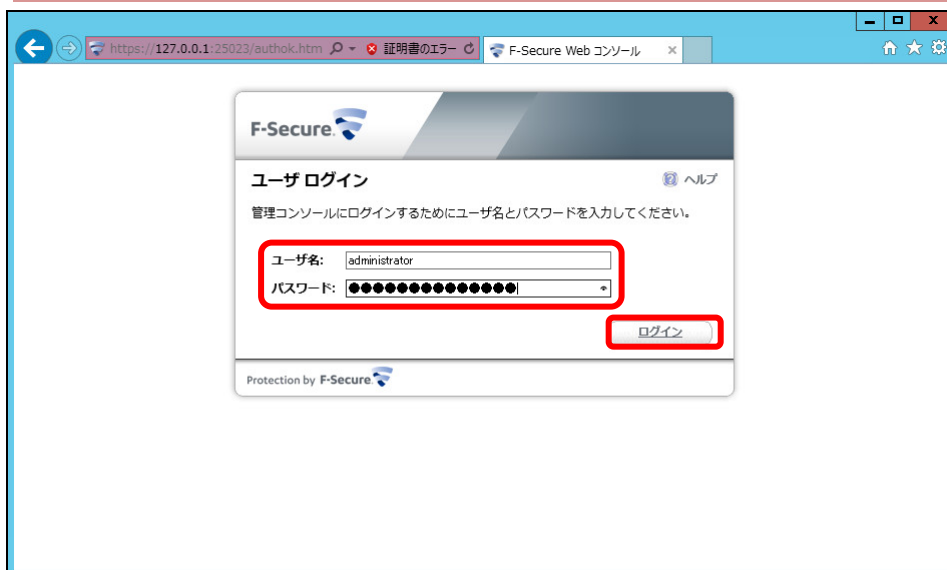


4. 「127.0.0.1」が Web サイトに追加されたことを確認し、「閉じる」をクリックします。



3. 「ユーザ名」、「パスワード」を入力し、「ログイン」をクリックします。

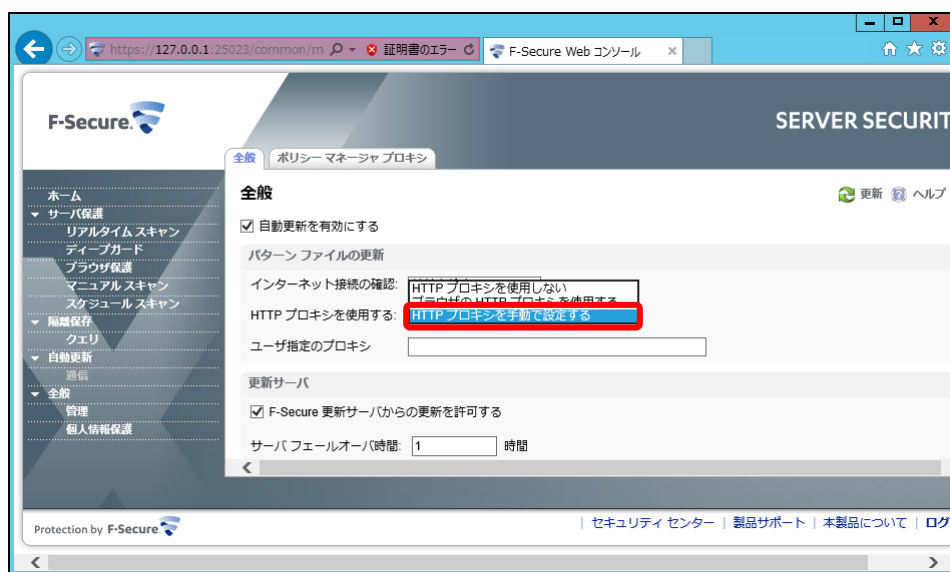
項目	値
ユーザ名	仮想マシンの管理者権限を持ったアカウント 例：Administrator
パスワード	【ユーザ名】に設定されているパスワード



4. 左メニューの「自動更新」をクリックします。

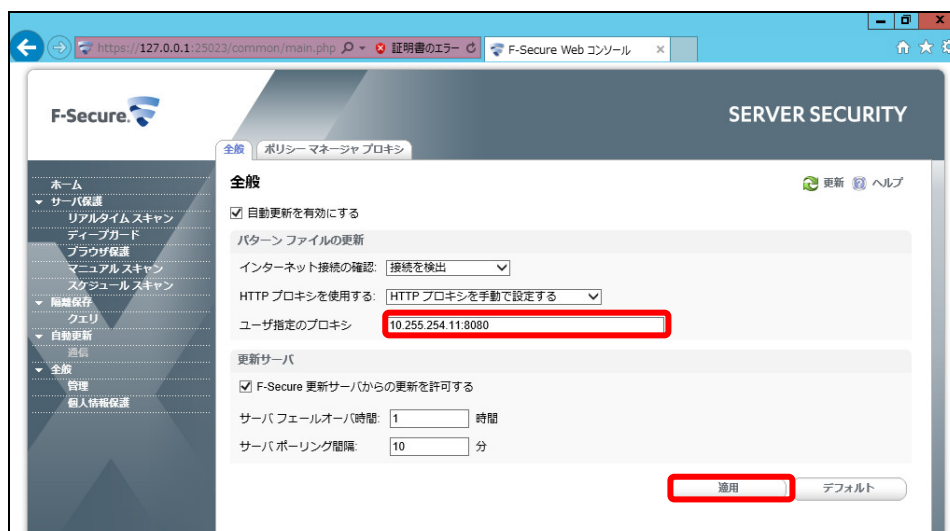



5. 右ペイン内の「パターン ファイルの更新」 > 「HTTP プロキシを使用する」にて「HTTP プロキシを手動で設定する」を選択します。



6. 「パターンファイルの更新」 > 「ユーザ指定のプロキシ」にて、プロキシサーバの「IP アドレス:ポート番号」を入力し、「適用」をクリックします。

項目	値
ユーザ指定のプロキシ	プロキシサーバの IP アドレス:ポート番号 例 : 10.255.254.11:8080



7. 「ホーム」 > 「概要」タブの「自動更新」が「」となっていれば最新のパターンファイルが適用されています。



以上で、セキュリティソフトのセンター接続のプロキシ設定は完了です。